



員数	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
職種	介護職	介護職	介護職	介護職	看護職	介護職	介護職	介護職	介護職	介護職(外)	介護職(外)	介護職	介護職	看護師	
勤務年数	4	2	12	11	15	13	2	3	10	2	2	6	5	1	
製品	ケース	ケース	ケース	ケース	ケース	ケース	ケース	ケース	ケース	ケース	ケース	ケース	ケース	ケース	
離床 キャッチ ベット	センサーマットより迅速に起き上がりや端座位の情報キャッチできるので立位不安定な利用者に素早く対応できる。	転倒リスクを減らすことが出来るためADL、QOLの現状維持が可能。また排泄介助を含む見守り機会にもつながるため、清潔を保持することが出来る。(OSIにつながる)	利用者の身体状態に合わせて早期に対応することが出来る。職員が少ない日でもキャッチできることで事故を未然に防ぐことが出来る。	センサーマットは床に足がついてからの反応のため駆けつけたときには既にトイレに行かれておりヒヤツとすることもあるが、起き上がりからの設定があるため、誘導に同行することが出来る。介護する側が慌てることなくゆとりをもって対応することが出来るようになってきている。	上下肢ともにしっかり拳上でき、利用者の安楽な体位を維持できる。また上肢のみなどのアレンジもできるので、訴えも速やかに対応。またセンサーキャッチするためお待たせせずに苦痛を和らげることができる。	自己にて歩行できるが不安定であり歩行にリスクある方への見守りに有効。	利用者の行動パターンを把握したり歩行にリスクある方への見守りに有効。	センサーマットの設置位置を考えるのが大変だったり、コードでつまずいて転ぶ危険がなくなったのが良い。(コードが気になっていいる利用者もいる) また夜間誘導が必要な時に行えるので睡眠を邪魔しないので済む。ただし、起き上がりなど細かい動きを感知するため、何度も反応があり、夜勤帯一人の時は他の対応も含めて優先順位を決めなくてはならず慌てる。いずれにしろカスタマイズが必要である中、このようなケースは眠りリスクの方が良いのかも？	コードが足元にないで安全	離床行動をお知らせしてくれるので便利。	便利だと思う。	離床キャッチのおかげでタイミングよく駆け付けられることができ、パッド汚染を回避できるようになった。	ベットから起き上がった時点で反応してくれるので、ベットからの転落転倒を防ぐことが出来ると感じる。	危険の早期発見には有効。	
眠りスキャン	(担当フロアにないため具体的なことは言えないが) 離床キャッチよりも細微な動きが分かるのでリスクのより高い方へのアプローチにマッチすると思う。	利用者の状態によって設定をカスタマイズできるので、様々な情報を得ることが出来る。日誌業務を行うことが多いこともあり状態変化に気づく機会も増えている。自分がハブとなり、その変化への対策を他職員と共有・周知することで必要なケアサービスとして広げられる。(ケアの質)	(5人体制から) 4人夜勤になったが、スキャンが反応することで早期発見が可能となった。眠りのリズムも知ることが出来るので傾向予測の材料となる。	今までは状態の悪い方や急変リスクの高い方を、常に気にして訪室するという過剰な対応をせざるをえなかったがスキャンが定量化しながら状態を示してくれるため「適時」に対応できるようになった。	呼吸、心拍の変化を見える化できることは非常に有効。異変があったときに瞬時に対応できる。	常にリアルタイムに情報を取得できるため、トイレ誘導に必要な方への「大丈夫かな？」という不安がなくなった。また、本人のタイミングで介助にあたるということには、不必要なラウンドや声掛けがなくなることだ。(特に夜間は眠りの妨げになり本来転倒) ジャストタイムでサポートするというのは、利用者の尊厳尊重にもつながるのではないかと。	瞬時に目で見て判断することが出来ない利用者状態変化をいち早くキャッチできる。看取り期の方にも有効。	(担当フロアにない) 研修でしか触れないが、睡眠の質を知ることが出来、日中の活動力の参考になると思う。	夜間帯の職員の人数が少ない時でも利用者の状態を居室までいかに早くも知ることが出来るので安心。	ケアプランの改善やスタッフの業務負担軽減、入居者の生活習慣の改善に役立つと思う。	便利だと思う。	離床検知を使って自己にてトイレに行く前に介助へとつなげてくれる。(転倒防止にもなる)	状態が悪い方の変化をいち早く気付くのはもちろんだが普段活気がある方でも夜間眠りスキャンに何らかの反応がある。自分の目や耳では分からない領域でも気を配ることができ日中夜間問わず、欠かさないものになったと感じる。	異常早期キャッチに有効で注意必要者のピックアップができる。その後の観察の重要度、優先度の選択にも役立つ。	
天井走行リフト	(トレーニングはしたが、その後担当フロアにないため具体的なことは言えないが) 床走行リフトより移動の動きがとてスムーズなので、どのような体格の方でも小さい力で移乗出来るのが良い。	無駄な動きがなくなった!! 床走行リフトはリフト事態を動かさなくてはならないためぐらつきがある。職員も不安や緊張感をもって行うためそれが利用者にも伝わることもあった。しかし天井リフトはスマート&スムーズで利用者も職員との距離が近いことで不安も無いばかりか、楽しく会話も弾む。(移乗=楽しい時間) また保管する場所も気にしなくてよいため、本当に良いと思う。	床走行リフトとは異なり、他の居室にリフトを移動させる時間を要せずに済むため効率が良い。(つなぎ時間が不要)	床走行の場合は保管する場所や移動させるという手間、狭い多床室では使いづらいなどのネックがあったが、天井走行リフトは全て解消。人・場所・時間を限定されることのないユニバーサルなリフト。	介護する側される側双方に負担軽減できる。安全安心に走行でき、利用者からも職員からも評判が良い。(60代の看護士も操作できるなど、人を運ばず使うことが出来る)	移乗に対して「頑張らないといけない」という気持ちが減った。特に身体負担が軽くなったと感じるときは夜勤中の離床介助。朝は体カバッテリーが少なくなっている時間帯が楽になったと感じることが出来る。(以前より負担を感じない)	多床室へリフトを運び込む必要がなく狭い感でもストレスなくリフトを使用できる。	(担当フロアにない) 研修でしか触れないが、体重が重い方も簡単に動かすことが出来る。とても良い。	部屋が狭い場所でも場所をとらずリフト自体の重さも軽くして使いやすい。	利用者の安全と職員の腰痛予防になる。一人で介助出来るが、他のスタッフが別の業務につくことができる(一括ではなく分割オペレーション)	負担が少ない	コミュニケーション(会話)を取る機会も増え、不安を解消できている。	少ない力で双方に負担が軽くなったと感じる。また天井走行リフトは、利用者との距離で介助できることで、しっかりと表情をみながら体を支えられるため、安心感が高い。	看護職でも「横になりたい」という要望にスムーズに答えられる。「寝かしてあげたいけど一人ではできなくて申し訳ない」ことがなくなり、皆にとって助かっている。	
リショ-ネプラス	(トレーニングはしたが、その後担当フロアにないため具体的なことは言えない)	とある利用者へ、以前床走行リフトを使用した時は危険を感じた時があったが、リショ-ネになって安全性が高まりつつ移乗した後の安楽な状態を維持することが出来る。	安全な移乗ができ(対象となる重度の)利用者への負担を減らすことが出来るのではないかと。身体が大きな方でも一人で操作可能であるため、腰痛予防になる。	車椅子になった際、体の大きい方は左右にずれることがあるため転落に気を付けている。皮膚の弱い方、全身状態が悪い方は褥瘡リスクが高くなるため、エアマットを使い、(がリショ-ネになると使えない)	工程が少ない。また身体が大きなたてもスライディングシートを併用しながら車椅子の状態にし、簡単に居室から移動することが可能。「いま起きたい、起こしたい」というタイムリーなアクションも可能。(例えば二人移乗をとっている場合、人が揃うまで移乗できないなどが発生するだろう)	リフトの使用に抵抗や恐怖心のある方でも、安心して離床することが出来る。	1階特養で使用していた方は、移乗のときに痛みを訴えたり、表皮剥離の恐れがなくなりリショ-ネにしてからは訴えも少なくなりリスクが軽減された。	職員一人でも安全にベッドから車椅子の状態にできるのは「力」の小さい女性職員でも楽に移動が出来て、とても使いやすい。	気軽に部屋から出て食事、イベントに参加することが出来る。	本当に使いやすい。ベットから車椅子に移る際の怪我、介助者の腰痛リスクが小さくなる。	移乗による負担が減り(車椅子より)姿勢保持もできるようになった。	初代リショ-ネとは異なり、音声がついたことでボタンの押し間違いに気づくことが出来る。また、車輪の前後に操作レバーがついたことでブレーキのかけ忘れにも気づくことができ、直進するときの操作も行きやすくなった。	フロアに移動するには便利だが対象の方をフロアに誘導していない時がある。(意味がないのでは?)		
自由欄	機器がフロア限定の場合、他フロア担当者が触れる機会がない。忘れないよう定期的に研修機会をつくってもらいたい。	「年齢を重ねても介護の仕事ができることを目指す」というお話があったが福祉機器を使うことで介護する側される側を守れると思う。私たちが身体を使うことは利用者も「悪いな…」と感じている方は少なくない。(いつも悪いね、申し訳ないといわれる)福祉機器を使うことでそのような気持ちを打ち消し安心して「介護」を受け入れて頂けるようにしたいと思う。	人がいてこそ福祉機器だと思ふ。特に特別休暇取得シーズンなど職員配置が厳しい時、目視できなくても機器によって状況を見ることができたため、利用者・職員双方を守ることになっている。また、天井走行リフトは「今ではこんな素晴らしいものが出てくるんですよ〜!」「常に未来は進歩しているね」等、会話も弾む。	体重を簡単に測れる機器(リフト以外)	文字で書くのではなく口頭であればもっと伝えたいことがある。さまざまな小さく細かいことを考えながら優先順位を決定し実行していくのが現場。傍目で見るとも心理的な不安・ストレスが大きい。しかし、人間では解決できないその課題を技術で補い「人にしかできない判断」と「行動」に繋げてくれるモノを導入してもらったことに感謝したい。ありがとうございます!(口頭ヒヤリングより)	眠りスキャン、天井走行リフトは研修のみのため星3つにはなっていないが、実際に現場で使用している物は職員の腰痛などの負担が少なく安心して仕事が出来ている。	ケアスタッフの負担軽減、介助の利便性につながる。	さまざまな新しい機器で便利になったし、腰痛負担の軽減になった。							機器導入は良いが、やはり動かすのも人であるためトレーニング(研修会)は一度きりではなく定期的に実施することが有効。その繰り返しを行い、実感を削り、人の確保につなげたいところ。